



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年10月29日

上場会社名 日糧製パン株式会社 上場取引所 札
 コード番号 2218 URL <http://www.nichiryo-pan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 勝彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 那須 英幸 (TEL) 011-851-8188
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	8,486	1.7	139	6.0	141	5.6	99	△6.3
2021年3月期第2四半期	8,348	—	131	—	133	—	105	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	47.32	—
2021年3月期第2四半期	50.48	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2021年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って使用した後の数値となっております。これにより、2021年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	14,666	4,848	33.1
2021年3月期	14,483	4,798	33.1

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 4,848百万円 2021年3月期 4,798百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2021年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	—	—	15.00	15.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,100	0.7	200	10.4	200	6.7	100	△18.2	47.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.7「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期2Q	2,103,948株	2021年3月期	2,103,948株
2022年3月期2Q	10,679株	2021年3月期	10,493株
2022年3月期2Q	2,093,337株	2021年3月期2Q	2,093,639株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期貸借対照表	P. 4
(2) 四半期損益計算書	P. 6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P. 7
(継続企業の前提に関する注記)	P. 7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 7
(会計方針の変更)	P. 7
(セグメント情報)	P. 7
3. 補足情報	P. 7
販売実績	P. 7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2021年4月1日～2021年9月30日)における北海道の経済環境は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進む過程において、感染拡大と収束の動きが繰り返されましたが、総じて厳しい状況で推移しました。当業界におきましては、先行きへの不安感からお客様の節約志向が根強い一方、菓ごもり消費を背景に需要が多様化する市場環境のもと、原材料費やエネルギーコストが上昇し、さらに北海道では夏の記録的な暑さによるパン・菓子の消費減退もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下におきまして、当社は、「おいしく、北海道らしく。」の方針と、日々お客様へ安全・安心な製品を安定して供給する使命に基づき、科学的根拠に基づく感染防止対策に全社を挙げて取り組みつつ、日常業務の着実な遂行に努めてまいりました。また、生産、販売、管理の各部門における業務の見直しや諸経費の抑制に努め、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

製品別の売上状況につきましては、食パン部門は、主力の「絹艶」が好調に推移しましたが、昨年増加した在宅需要の反動に加え、低価格帯食パンの伸び悩みもあり、前年同期の売上を下回りました。菓子パン部門は、主力の「北の国のベーカリー」シリーズの品揃え強化と、北海道産小麦を使用した高付加価値製品「北海道をしっかりと香ばしく」シリーズの新製品投入による寄与がありましたが、コッペパン等のロール類の低迷とペストリー類の伸び悩みもあり、前年同期の売上を下回りました。和菓子部門は、主力の蒸しパン、大福が堅調に推移したことに加え、北海道産原料を使用したロングライフ製品「福かまど」シリーズの寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。洋菓子部門は、「カップデザート」シリーズや「ホイップサンドドーナツ」等のチルドデザート類が伸長するとともに、主力の「チョコブリッコ」や「クラフトバイク」シリーズ等のスナックケーキ類が順調に推移し、前年同期の売上を上回りました。調理パン・米飯部門は、主力の「絹艶サンド」、具材をたっぷり入れた食べ応えのある「具だくさんおにぎり」等のおにぎり類や寿司類を積極的に拡販し、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高は8,486百万円(対前期比101.7%)、営業利益は139百万円(対前期比106.0%)、経常利益は141百万円(対前期比105.6%)、四半期純利益は99百万円(対前期比93.7%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における資産合計は14,666百万円で前事業年度末に対し182百万円増加しました。流動資産は4,998百万円で主に現金及び預金が331百万円増加し、売掛金が98百万円減少した結果、前事業年度末に対し258百万円増加しました。固定資産は9,668百万円で主に有形固定資産が59百万円、投資有価証券が14百万円減少した結果、前事業年度末に対し76百万円の減少となりました。負債合計は9,817百万円で主に支払手形及び買掛金が18百万円、長期借入金(1年内返済予定含む)が143百万円、未払法人税等が23百万円増加し、流動負債のその他が62百万円減少した結果、前事業年度末に対し131百万円増加しました。純資産合計は4,848百万円で主に利益剰余金が67百万円増加し、その他有価証券評価差額金が16百万円減少した結果、前事業年度末に対し50百万円増加しました。

この結果、当第2四半期会計期間末における自己資本比率は33.1%、1株当たりの純資産は2,316円44銭となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、上述の「(1) 経営成績に関する説明」及び「(2) 財政状態に関する説明」については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期累計期間及び前事業年度との比較を行っております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、北海道経済は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、社会・経済活動の制限解除に伴い景気の持ち直しが期待されるものの、なお収束の見通しが不透明であり、厳しい状況が続くものと予想されます。当業界におきましては、お客様の需要が変化し販売競争が激化する市場環境のもと、原材料費やエネルギーコストの高騰が見込まれ、経営環境は厳しさを増すものと予測されます。

このような情勢下におきまして、当社は「おいしく、北海道らしく。」の方針のもと、お客様の潜在需要やニーズに即した付加価値の高い製品を提供するとともに、新しい価値と新しい需要の創造に取り組み、業績向上に努めてまいります。各種コストが高騰しているなか、引き続きお客様へ安全・安心な製品を安定して供給するため、本年10月から和菓子・洋菓子の一部製品の価格改定を実施いたしました。また、今後主原料である小麦粉価格の高騰が予想されるため、生産・販売が一体となり製品施策・営業戦略を着実かつ迅速に実践・実行・実証するとともに、全社を挙げて内部管理の充実と業務の効率化を推し進めて収益確保に努め、経営課題に着実に対処してまいります。なお、2022年3月期通期に関する業績予想につきましては、2021年5月13日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,296,168	2,627,313
受取手形及び売掛金	2,093,963	1,995,114
商品及び製品	44,763	37,609
仕掛品	25,832	29,304
原材料及び貯蔵品	206,946	226,333
その他	72,148	82,909
貸倒引当金	△178	△129
流動資産合計	4,739,644	4,998,455
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,448,082	2,460,571
機械及び装置(純額)	1,534,923	1,456,532
土地	4,662,405	4,662,405
その他(純額)	238,351	244,487
有形固定資産合計	8,883,762	8,823,995
無形固定資産		
その他	74,619	70,599
無形固定資産合計	74,619	70,599
投資その他の資産		
投資有価証券	597,160	582,610
投資不動産(純額)	47,765	46,800
繰延税金資産	128,263	131,380
その他	12,852	12,998
貸倒引当金	△194	△194
投資その他の資産合計	785,848	773,595
固定資産合計	9,744,229	9,668,190
資産合計	14,483,874	14,666,646

(単位:千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,028,165	2,046,360
短期借入金	750,000	750,000
1年内返済予定の長期借入金	876,036	869,804
未払法人税等	37,809	61,414
賞与引当金	180,519	197,401
その他	1,040,158	977,371
流動負債合計	4,912,688	4,902,351
固定負債		
長期借入金	1,935,776	2,085,500
再評価に係る繰延税金負債	1,190,579	1,190,579
退職給付引当金	1,568,213	1,554,367
役員退職慰労引当金	72,195	78,064
その他	6,320	6,850
固定負債合計	4,773,084	4,915,361
負債合計	9,685,773	9,817,712
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051,974	1,051,974
利益剰余金	773,922	841,577
自己株式	△14,451	△14,837
株主資本合計	1,811,444	1,878,713
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	292,316	275,879
土地再評価差額金	2,694,340	2,694,340
評価・換算差額等合計	2,986,656	2,970,219
純資産合計	4,798,101	4,848,933
負債純資産合計	14,483,874	14,666,646

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	8,348,360	8,486,493
売上原価	5,996,214	6,091,632
売上総利益	2,352,146	2,394,860
販売費及び一般管理費		
販売費	1,823,253	1,844,835
一般管理費	397,214	410,423
販売費及び一般管理費合計	2,220,467	2,255,258
営業利益	131,678	139,601
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	7,567	9,709
受取賃貸料	4,468	4,341
受取保険金	3,472	-
その他	2,346	2,696
営業外収益合計	17,863	16,756
営業外費用		
支払利息	15,586	14,862
その他	0	0
営業外費用合計	15,586	14,862
経常利益	133,955	141,496
特別利益		
固定資産売却益	3	2,533
投資有価証券売却益	18,574	-
補助金収入	4,399	-
子会社清算益	6,286	-
特別利益合計	29,264	2,533
特別損失		
固定資産売却損	-	547
固定資産除却損	7,030	6,425
減損損失	24	-
子会社清算損	1,475	-
特別損失合計	8,530	6,973
税引前四半期純利益	154,689	137,056
法人税等	49,000	38,000
四半期純利益	105,689	99,056

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの間の一時点、すなわち出荷(一部着荷)の時点で、当該商品又は製品と交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は販売費に計上しておりましたセンターフィー、オンライン処理料、協賛金等の一部を売上高から控除しております。当該会計方針の変更は、原則として遡及適用され、前年四半期及び前事業年度については遡及適用後の四半期財務諸表及び財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期累計期間の売上高及び販売費がそれぞれ167,442千円減少しております。なお、前事業年度の期首の純資産に反映された累積的影響額ははありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社は、食品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. 補足情報

販売実績

販売実績を事業部門等別に示すと、次のとおりであります。

事業部門等の名称	前第2四半期累計期間(千円)	当第2四半期累計期間(千円)	前年同期比(%)
食パン	1,443,970	1,366,472	94.63
菓子パン	2,942,974	2,881,585	97.91
和菓子	1,599,891	1,682,683	105.17
洋菓子	467,846	533,304	113.99
調理パン・米飯類	1,788,161	1,822,315	101.91
その他(仕入商品)	105,516	200,132	189.67
合計	8,348,360	8,486,493	101.65

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。